



景観を考えて堤防は石積護岸になっている。また「花の回廊」づくりにより、緑豊かな川岸が実現している

水で蘇る都市の実践現場から

# 京<sup>みやこ</sup>の歴史を彩る鴨川を守る

## 鴨川

一一二〇〇年にわたる京<sup>みやこ</sup>の歴史を  
継続する川づくり

京都市内を南北に流れる「鴨川」はかつては頻繁に氾濫を起し、洪水の被害を与える川だった。近年では昭和十年に死傷者一二二人、家屋浸水約二四〇〇〇戸、さらに鴨川に架かる橋のほとんどが流失するという大洪水に見舞われている。この大洪水を契機に、昭和一一年から二年にかけて抜本的な改修が進められ、今の姿が形づくられた。現在、鴨川を管理する京都府では、一一二〇〇年にわたる京都の川の文化を踏まえつつ、長期的には一〇〇年に一度の洪水に耐えられることを目標とした鴨川づくりを進めている。

そのための具体的な事業の一つに、京都市域内の四一の河川を対象に、潤いのある美



下鴨神社の南、「出町柳」付近で賀茂川と高野川が交わって鴨川となる



鴨川に流れ落ちる水の流れ



鴨川は、河川敷の西側を丸太町近くから五条まで流れる「みそぞぎ川」も含めて、川面の近くまで河原に降りることができる

ナビゲーター  
京都府土木建築部  
河川課

京都府土木建築部河川課

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入  
京都府土木建築部河川課  
TEL:075-414-5287 FAX:075-432-6312



鴨川をはじめ、京都の河川の魅力を知ってもらうため。また『京の川づくり』事業の意義を伝えるために、様々なパンフレットが制作されている



参加した子供たちも大喜びした「鴨川探検!再発見!」第1弾となった『水辺の自然観察会』の光景



写真などでよく紹介される、川を渡る「飛び石」が各所に置かれている



川沿いには、所々に堤防から川まで降りることができるように階段などが設けられている

美しい川づくりを目指す『京の川づくり』事業がある。学識経験者や京の町衆(市民)などで構成された「京の川づくり懇談会」(座長・岡崎文彬京都大学名誉教授)が、理念や整備のコンセプトをとりまとめて、京の川づくりプラン」を作り上げ、それに沿った事業を推進し、鴨川では平成四年から、花の回廊」の整備などが進められてきた。

この「花の回廊」は、昭和六二年に東の堤防上を走っていた京阪電車と琵琶湖疏水の地下化が完成したのをきっかけに、三条から七条間の左岸の河川改修を行った。その際、四季折々の花や木を楽しみ、鴨川の川面を眺めながら散策できる緑の空間を生み出した。「山紫水明の京都に相応しい鴨川となるよう、石積護岸や曲線配置など素材や修景にきめ細やかな配慮がされています」と京都府土木建設部河川課の松崎敏之計画係長。

また、二〇〇四年六月からは洪水予報を実施するなどソフト面での対策も進めている。

一時は水質も悪化した鴨川だが、その後の下水道の整備などにより、大都会における川としては、かなりきれいな水質を誇るようになったのも、同課をはじめとする行政の努力の結果である。その鴨川の魅力を、より市民に知ってもらうために、昨夏、「鴨川探検!再発見!」と名付けたイベントも開始しているが、今後も、市民にとって安全で親しめる美しい鴨川づくりに努めていくとつづ。

(文責・CEL編集室)

CEL